

私（わたし）がねがう自由（じゆう）な世界（せかい）

今日は、北九州市の小学五年生の作文を紹介（しょうかい）します。本人（ほんにん）の朗読（ろうどく）でお聴（き）きください。

『私（わたし）がねがう自由（じゆう）な世界（せかい）』

私の好きな男性（だんせい）歌手（かしゅ）は、いつもメイクをしてテレビに出ていて、とてもかっこいいです。でも、お母（かあ）さんたちの時代（じだい）では男（おとこ）の人はメイクをしないということが当たり前（まえ）だったようです。だから、今（いま）でも、「男（おとこ）のくせにメイクをするなんて変（へん）だ。」や、「ネイルを男（おとこ）がするなんて女（め）々（め）しい。」などの批判（ひはん）をする人が世（よ）の中にはたくさんいます。

私はそのような批判（ひはん）をSNSで見たり、周り（まわ）から聞（き）いたりするたびに、「べつしてそんなことを言うのだろう」という気持ち（きもち）になります。その男性（だんせい）歌手（かしゅ）は目をキラキラしているように見（み）せたり、衣（い）しように合わせた個性（こせい）的なネイルをしたりするなど、工夫（くふう）や努力（どりよく）をしていると思う（おも）うからです。

もし私（わたし）が批判（ひはん）される立場（たちば）だったら、メイクやネイルをしたことを後悔（こうかい）して落ちこんでしまい、ステージなどに立（た）てなくなりそうです。でも、「べつというメイクをすると似合（にあ）うと思う（おも）。」や、「アイシャドウを〇〇色（いろ）にしてみたら。」などのアドバイスをもらうと、「よし、がんばろう。」「という気持（き）ちや感謝（かんしゃ）の気持（き）ちで心（こころ）がいっぱいになると思（おも）います。

あなたは、工夫（くふう）や努力（どりよく）をして個性（こせい）を表（あらわ）している人に「男（おとこ）だからやめろ」などの悪口（わるくち）を言（い）えますか。私は「男（おとこ）らしい」「女（おんな）らしい」という考え（かんが）え方は、よくないと思（おも）います。だから、友達（ともだち）が男（おとこ）の子（こ）だけど女（おんな）のこっこうがしたいと言（い）ってても受け止（と）めます。また、友達（ともだち）が同じ（おな）性別（せいべつ）の人（ひと）を好き（す）きと言（い）っても応（おう）えんしたいです。男（おとこ）の人（ひと）、女（おんな）の人（ひと）がどんなかっこうをしていても、どんなかみ型（がた）をしていても、おたがいにみとめ合（あ）い個性（こせい）をそん重（じゆう）し合（あ）える世界（せかい）になっ（な）ってほしいです。

いかがでしたか。

私たちはみな、自分（じぶん）ならではの個性（こせい）を持（も）っていて、その表（あらわ）し方も人（ひと）それぞれです。

作者（さくしや）の言う「自由（じゆう）な世界（せかい）」とは、外見（がいけん）で判断（はん断）したり、「男（おとこ）だから」「女（おんな）だから」という決（き）めつけにとらわれたりせず、お互（たが）い一人（ひとり）の人（ひと）間（かん）として「自分（じぶん）らしき」や多様（たよう）性（せい）を認（み）め、個性（こせい）を尊（そん）重（じゆう）し合（あ）う世界（せかい）のことではないで（な）しょうか。

私（わたし）たちも、自分（じぶん）や相手（あいて）の個性（こせい）を大（たい）切（せつ）にでき（き）る、そんな社会（しゃかい）を目標（めざ）していき（い）きたいです（な）ね。

では、また。

